

はじめに

本報告書は、4部10章から構成されている。

第Ⅰ部は「住宅と高齢者」と題し、実態調査データの分析に先だって、高齢者の住宅問題をとりまくマクロな状況の把握を行い、調査報告の序論とした。第1章では、大都市圏の典型としての首都圏での人口動向と高齢化、さらに、住宅所有の現状を統計データから整理した。第2章では、高齢者の住宅問題に対する公共の対応の現状を把握するために、とくに首都圏の自治体による政策を紹介している。第3章では、実態調査対象地域である埼玉県越谷市の人口動向と高齢化の状況をやや詳しく整理してある。

第Ⅱ部は「高齢者の住居移動と住宅取得」と題し、越谷市の高齢者を対象としたアンケート調査から得られたデータを用いて、現在越谷市に住む高齢者の居住歴の分析を行っている。第4章では、アンケート調査の概要を紹介し、続く第5章では、生まれてから結婚を経て現在へいたる住居移動のパターンを抽出している。第6章では、入居時期による来住過程の差や高齢期になっての来住の特徴などのやや細かい分析を試みている。

第Ⅲ部は「高齢者のハウジング環境」と題し、同じアンケート調査のデータから、高齢者をとりまく生活空間やハウジングに対する価値観、意識の問題を検討している。第7章では、高齢者の日常生活における活動範囲や社会的ネットワークの広がりを把握し、それを踏まえて、第8章では高齢者のハウジング価値観や定住意志の特徴を分析している。第9章では、住環境に対する高齢者の意識構造の特徴を把握するために、統計的手法を用いた分析を試みている。

最後の第Ⅳ部では、本研究の結果として得られた知見をもとに、郊外地域における高齢者ハウジングの政策的課題について若干の指摘を試み、結論とした。